

## 授業改善の日常化を図る校内研修

### ～協働意識を生かした授業研究の取組みを通して～

福島県教育センター 主任指導主事 安瀬 一正

## 1 研究の趣旨

児童生徒の「確かな学力」の向上を目指すため、学校では校内研修の一環として授業研究が行われている。しかも、授業力向上のために授業研究の重要性はますます高まってきている。しかし、授業研究で得られた成果や課題が個々の教員の授業改善になかなか結び付いていかないという状況が見られる。また、授業研究の成果や課題を自己の授業改善に生かそうとしても、一人だけの取組みでは限界もあり、意欲も持続しにくいと言える。このことは研究に当たって実施した県内小・中・高等学校（抽出校71校）に対する「研修に関する実態調査」から、「授業研究の成果を日常の授業に生かすことが十分ではない」あるいは「授業研究への参加意欲に温度差がある」と回答した教員が多いことから明らかである。

そこで、授業研究と個々の教員の授業改善とを結び付ける校内研修体制の構築を目指す必要がある。本研究では、授業研究を通して授業者や参加した個々の教員の自己課題を明確にするとともに、教員同士のかかわりの中から、その解決のためのより有効な方策を見いだしたり、相互の授業実践を振り返ることで自己課題の修正を図ったりすることができるように、授業改善の日常化につながる校内研修体制の構築の在り方を追究した。

## 2 研究の概要

### (1) 授業研究会の充実による自己課題の明確化のために

事後の授業研究会において得られた成果や課題を基に、個々の教員が自己課題を明確にし、日常の授業改善につなげられるようにするために、次のような研修モデルを提案し、研究を進めた。

#### ① 協議の活性化を図り、主体的な参加を促す。

参加した教員一人一人が協働意識を持って主体的にかかわることができるようにするワークショップ型研修等を取り入れる。

#### ② 自己の授業を振り返る場を設定する。

授業研究を中心とした協議の後に、この協議で出された成果を踏まえて自己課題を明確にするために、教材観、児童生徒観、指導観の三つの観点から、授業者、参加した教員一人一人が自己の授業を振り返る場を設定する。

#### ③ 「協働」による自己課題の一層の具体化と解決の見通しを持つ。

互いの自己課題について解決のための具体的な見通しを持つことができるように、小グループによる協議・交流の場を設定する。

### (2) 「協働」と「日常化」を目指す研修のために

教員同士が、自己課題を共有し、授業改善の日常化のために互いに批評し合ったり、情報を交換し合ったりできるようにするために、以下のような研修主任のコーディネートによる「協働」の場を設定した。

#### ① コーディネータとしての研修主任の役割を明確にする。

教員同士の授業改善に向けたかかわりあいが一層促されるように、授業改善の日常化に向けた研修主任の連絡調整機能を重視した取組みを進める。

#### ② 「協働」による自己課題解決の場を設定する。

授業改善の日常化が見られ、実践への意欲が高まるように、自己課題解決のための日ごろの実践の状況を振り返る場を学年会等の協議に位置付ける。

#### ③ 自己課題を解決するための過程を振り返る手立てを工夫する。

自己課題に基づいて実践の状況を確認し、次の実践に生かせるように、チェックシート等を活用する。また、「協働」につなげられるように教員同士の相互評価も取り入れる。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

① 事後の授業研究会の工夫等は、個々の教員が自己課題を明確にし、具体的な授業改善への見通しを持つことに有効であった。

② 振り返りの場を大事にして、「協働」と「日常化」を目指す研修を進めてきたことで、個々の教員の意識の高まりが見られてきた。

### (2) 今後の課題

① 今年度の実践は、まだ部分的である。今後、修正や新たな手法の開発を行い、研修の「協働」「日常化」が学校の実態に応じ、より一層推進できるように進めていきたい。